

【報道関係各位】

2026 年 1 月 29 日
一般財団法人 日本気象協会

2026 年桜開花予想（第 1 回） 開花は平年並みか早い トップは福岡・東京で 3 月 21 日

一般財団法人 日本気象協会（本社：東京都豊島区、理事長：渡邊 一洋、以下「日本気象協会」）は、日本全国 53 地点の桜の開花予想（第 1 回）を、2026 年 1 月 29 日（木）に発表します。

なお、次回の桜開花予想は 2 月 26 日（木）に天気予報専門メディア「tenki.jp（てんきじえーぷり）」桜の開花予想ページ（<https://tenki.jp/sakura/expectation/>）にて発表します。3 月以降は、開花予想に加え、満開予想も毎週水曜日（水曜日が祝日の場合は木曜日）に同ページにて発表予定です。

開花予想前線図



開花予想日(主な地点)

桜開花予想 2026		2026年1月29日発表			
地 点		開花予想日と傾向(平年比)		平 年	昨 年
北海道(道東)	釧路市	5/10	早い	5/16	5/7
北海道(道央)	札幌市	4/26	早い	5/1	4/23
青森県	青森市	4/17	早い	4/22	4/17
宮城県	仙台市	4/4	早い	4/8	4/4
秋田県	秋田市	4/13	早い	4/17	4/15
東京都	千代田区	3/21	早い	3/24	3/24
長野県	長野市	4/7	早い	4/11	4/8
新潟県	新潟市	4/3	早い	4/8	4/6
石川県	金沢市	3/31	早い	4/3	3/29
愛知県	名古屋市	3/22	平年並	3/24	3/26
大阪府	大阪市	3/25	平年並	3/27	3/27
広島県	広島市	3/24	平年並	3/25	3/26
高知県	高知市	3/22	平年並	3/22	3/23
福岡県	福岡市	3/21	平年並	3/22	3/25
鹿児島県	鹿児島市	3/26	平年並	3/26	3/24

※釧路市はエゾヤマザクラの予想



開花の傾向

2026 年の桜の開花は、西日本ではおおむね平年並み、東日本では平年並みか早く、北日本は平年より早いでしょう。

今年の桜の開花は、3 月 21 日に福岡と東京からスタートする見込みです。高知と名古屋は 22 日、広島は 24 日、大阪は 25 日に開花するでしょう。桜前線は、3 月末に北陸地方に達し、31 日には金沢で開花する見込みです。

4 月には東北も桜の季節を迎え、4 月 4 日には仙台で、17 日には青森で開花するでしょう。北海道では、札幌でゴールデンウィーク前の 26 日に開花する見込みです。

桜の花芽は、11 月ごろに休眠状態に入り、冬の間に一定期間の低温にさらされることで休眠から目覚めず(休眠打破※)。昨年 12 月から今年 1 月中旬にかけては、全国的に気温が高めでしたが、1 月下旬には厳しい冷え込みとなりました。休眠打破は、やや遅れた可能性はあるものの、おおむね順調に進んだと考えられます。

※休眠打破:前年の夏に形成され休眠に入った花芽が、冬になり一定期間の低温にさらされて目覚めること

この先も、西日本と東日本では寒暖の変動が大きく、2 月を通した気温はほぼ平年並み、3 月は西日本では平年並みか高く、東日本では平年より高い見通しです。このため、桜の開花は西日本でおおむね平年並み、東日本で平年並みか早いでしょう。

北日本では、2 月の気温は平年並み、3 月から 4 月にかけては平年より高い予想です。このため、桜の開花は平年より早いでしょう。

全 53 地点の桜の開花予想日は、天気予報専門メディア「[tenki.jp](https://tenki.jp/sakura/expectation/)(てんきじゃーびー)」桜の開花予想ページ(<https://tenki.jp/sakura/expectation/>)にて公開しています。

【言葉の説明】

平年:1991～2020 年の平均値

かなり早い	: 平年よりも 7 日以上早い
早い	: 平年よりも 3 日から 6 日早い
平年並	: 平年との差が 2 日以内
遅い	: 平年よりも 3 日から 6 日遅い
かなり遅い	: 平年よりも 7 日以上遅い

以上



参考資料

桜開花予想に関するよくあるご質問

Q1:桜開花予想の報道発表(プレスリリース)のスケジュールは？

A1:プレスリリースは以下の日程を予定しています。

- 第1回 1月29日(木)
- 第2回 3月4日(水)
- 第3回 3月中旬～下旬
- 第4回 4月上旬

なお、プレスリリースとは別に、天気予報専門メディア「tenki.jp」では、桜の開花予想を定期的に更新します。桜の開花予想ページ(<https://tenki.jp/sakura/expectation/>)にて、次回は2月26日(木)に、3月以降は開花予想に加えて満開予想を毎週水曜日(水曜日が祝日の場合は木曜日)に更新し、発表します。

Q2:開花日・満開日の基準は？

A2:気象庁の観測基準と同じです。開花日は標本木で5～6輪以上の花が咲いた状態となった最初の日、満開日は標本木で80%以上のつぼみが開いた状態となった最初の日です。

Q3:予想する地点数は？

A3:1月、2月中は53地点、3月以降は全国で約80地点の予想を発表します。予想地点は、各地の気象台が観測する標本木53地点と、自治体・公園などの協力機関から観測データを得られる約30地点となります。

Q4:日本気象協会の桜開花予想の手法・特徴は？

A4:花芽(はなめ)の生育過程に大きな影響を与える「秋以降の気温経過」に重点を置いた独自の予測式を用いて開花予想を行っています。各地の気象台の標本木や公園などの協力機関による正確な観測データを重視した、気象学的根拠に基づいた予想を出しているのが特徴です。

日本気象協会は2007年から桜の開花予想を実施しており、今年で20年目の取り組みです。

Q5:開花予想に使うデータは？

A5:以下データを使用しています。

- ① 前年秋から予想作業日前までの気温観測値
- ② 予想作業日から開花時期までの気温予測値(日本気象協会ポイント予報および長期予報)

桜の開花時期には、前年の秋から春にかけての気温が大きく影響します。桜の花芽は前年の夏に形成され、その後、休眠に入ります。冬になって一定期間の低温にさらされると、花芽は休眠から覚めます(休眠打破)。休眠から覚めた後は、気温の上昇とともに生長し開花しますが、気温が高いほど花芽の生長が早く進み、開花が早まると考えられています。